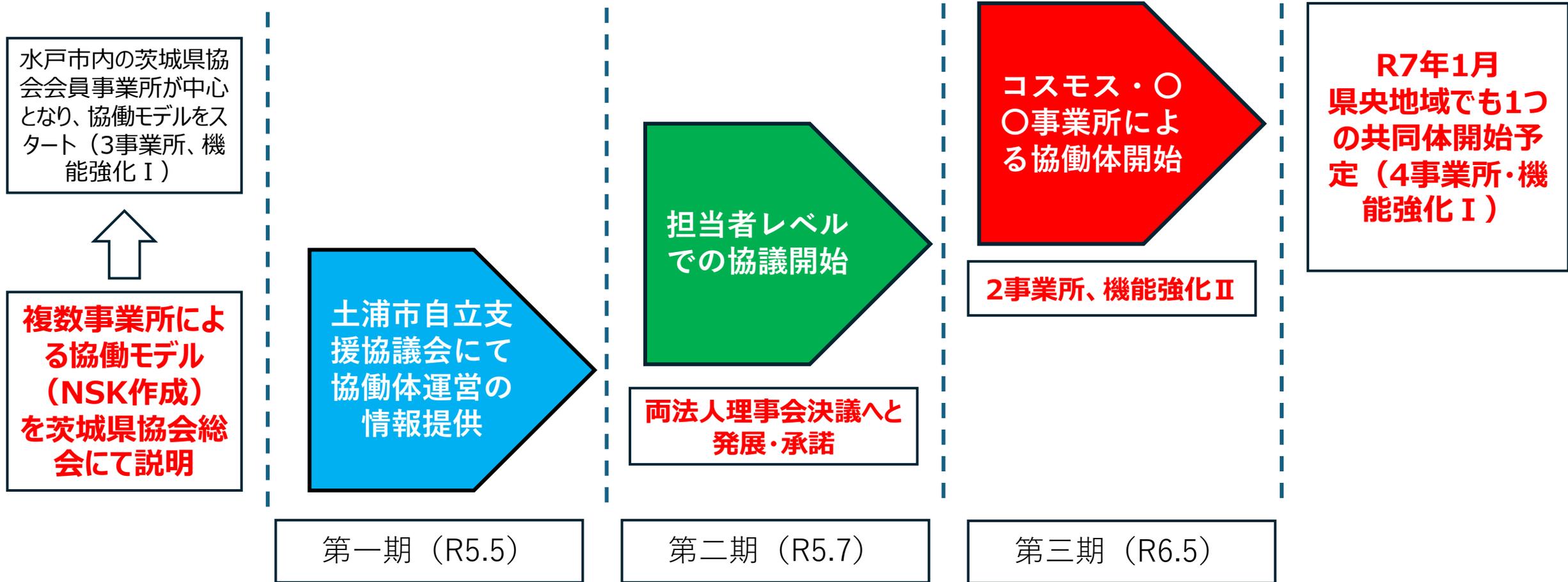


複数の事業所による一体的管理運営（協働型）の実践紹介

- 地域：茨城県土浦市
- 人口規模：約14万人
- 基幹相談支援センター：1か所
- 地域生活支援拠点等：面的整備にて対応
- 相談支援事業所の数：11か所

1. 協働体制の経緯と構築までのプロセス



2.地域の「持続可能な」相談支援体制の視点

茨城県土浦市に当てはめると

ケース数に見合った相談支援専門員が揃っている
⇒**足りない**

事業所同士が繋がり計画的に人材を育成、支える土壌がある
⇒**協議会・相談支援部会**

多種多様な相談に応じられる事業所がある
⇒**あるが…足りない（特に児童）**

相談支援事業所の数が増えはせずとも減らない
⇒**増えたり、減ったり…**



地域の「持続可能な」相談体制の課題

～相談支援事業所コスモスに当てはめると～



会社がつぶれない

⇒ **法人の収支安定**

相談支援専門員が離職しない

⇒平成18年1名から始まり、異動はあれど離職0

現在、兼務含めて6名体制

力のある相談支援専門員が働いている

⇒ **主任相談支援専門員2名**

県研修講師・ファシリ3名

安定した収入が得られていたが・

⇒ (申請前) **主任加算2、強行・精神体制加算
複雑・難しいケースの依頼が多く、沢山のケース
は受けられない。ここが悩み…**

うちだけでは
どうにもならない…

2. 一体的管理運営が順調に進んだ理由

コスモス定例ミーティングに〇〇事業所も参加（毎週火曜）



協働体制維持を月 1 回確認実施。

→月初のミーティングで確認（ルール化）

**全職員参加ケース共有会議、事例検討会を月 2 回以上
開催。**

→原則、第2、第4週に実施

※それ以外の週は共同で事業所や制度、研修等の情報共有等の時間に設定

4. 一体的運営管理の効果（それぞれの意見）

相談支援専門員

顔は知っていた程度だったが、仲良くなれた
自分たちの得意ジャンル以外の知識・情報を得られ、支援に還元できるメリットは大きい
ミーティング・GSVで今までと違う視点のアイデアがもらえる
今まで通り仕事をしているだけでも収入が増えたので、気持ちにも余裕ができた

相談支援事業所

ミーティングに良い意味の緊張感が加わった
収入が増えた（電卓を弾く回数が減った）
日常的な学びの場面としてミーティングはありがたい
もう少し収支バランスが見えてくれば、相談支援専門員を増やしても良いかな

他の事業所、他市からも一体的管理運営についての情報を求められることが増えた

土浦市

核になる相談支援事業所の経営が安定したことはとても良い
成功例をもとに市内の事業所でも一体的管理運営が増えると良い
増収により、兼務でも良いので少しでも相談支援専門員が増えてくれると良い
ただし実際の運用・運営状況を見えるようにしないといけない